

**小酒井不木は探偵小説のハイオナー**  
江戸川乱歩が大正十二年、「二銭銅貨」でデビューするときに推奨文を添えたのが小酒井不木であった。気鋭の研究者（生理学であった不木は肺結核のため東北帝国大学の教授の職を辞し、故郷名古屋でもともと趣味でもあった外国のミステリーの翻訳、研究、さらに創作にも進

もうとしていた。乱歩より四歳年長の不木はすでにこの世界での権威であった。不木によって外国のミステリーをしのぐ創作と認められたことによって、たちまち探偵小説界の寵児となった乱歩だったが、アドヴァイスをもとめてしばしば不木邸に通った。不木も乱歩の活躍に刺激されて、病身ながらも旺盛な文筆活動を展開する。「疑問の黒枠」は住まいのあった



耽綺社

もうとしていた。乱歩より四歳年長の不木はすでにこの世界での権威であった。不木によって外国のミステリーをしのぐ創作と認められたことによって、たちまち探偵小説界の寵児となった乱歩だったが、アドヴァイスをもとめてしばしば不木邸に通った。不木も乱歩の活躍に刺激されて、病身ながらも旺盛な文筆活動を展開する。「疑問の黒枠」は住まいのあった

寸楽園にて。左から長谷川伸、国枝史郎、乱歩、土師清二、小酒井不木、岩田準一、平山蘆江。



乱歩が少年時代を過ごした旧伊勢町付近(中区)

御器所を中心に、医大、老松町、千種刑務所、中村遊郭などを舞台に展開する本格的ミステリーで、代表作。  
**探偵作家は名古屋へ**  
昭和二年、「耽綺社」という小説合作の組合が作られ、六人の作家が毎月名古屋に集合した。病弱の不木に配慮して、彼の邸に近い、七本松の寸楽園がおもに使われた。休筆中の乱歩も含め、長谷川伸など一流の作家ばかりで、ここで合作された小説や戯曲は雑誌に発表されたり、名優によって演じられたりした。画期的な試みではあったが、不木の死により、二年足らずで終わった。しかし、乱歩の定宿であった大須ホテルや名古屋ホテルも含め、横溝正史、森下雨村をはじめとした東西の作家、編集者が頻りに名古屋を訪れた時代であった。



小酒井不木宅跡(右手前)と周辺(昭和区)

山下達治 郷土文学研究会員、あいち文学フォーラム

**探偵小説の「聖地」名古屋**  
江戸川乱歩と小酒井不木そして耽綺社

山下達治

名古屋が育てた江戸川乱歩

乱歩が三歳で亀山から名古屋に来たのは明治三十年。十八歳で朝鮮へ行くまで、都合六箇所を暮らした。乱歩が小説に好んで描いた世界の原風景は、名古屋で過ごした少年時代に眼にしたものの残像か。鶴舞公園の博覧会のパノラマの印象が強かったようだが、ほぼ広小路界隈に住んでいたので広小路や大須の盛り場の光景を、郷愁として反芻したこともあったろう。「私がまだ小学校に入らぬころ、(略)母は涙香の探偵本を、近くの貸本屋から借りてきて、ランプの下で読んでいたのを、私はそばに寝こんで、「挿絵をのぞいたり、話を聞かせてもらったりしたのが、探偵小説好きの素地となった」と回想している。坪内逍遙と貸本屋大惣との関わりが思い出される。

**少年探偵を産んだのも不木**

乱歩の魅力は、そのキャラクターに負うところが多い。明智小五郎、怪人二十面相、黒蜥蜴そして小林少年。明智探偵の助手小林芳雄は、主な活躍は「怪人二十面相」シリーズ以降だが、昭和五年の「吸血鬼」に初登場している。赤いリングのような類の美少年は乱歩の「趣味」であったようだが、不木はすでに十二歳の塚原俊夫を主人公とする「少年科学探偵小説」シリーズを大正十三年に発表している。塚原少年は不木の少年時代が投影されているようだ。不木の愛知一中時代以前からの親友で、科学ジャーナリストの原田三夫が編集していた「子供の科学」に連載されたものだった。不木が三十八歳で亡くなったのは、昭和四年。乱歩は、不木の示唆を受けて、通俗路線を進み、現在見るような、幅広い読者をもつ「国民作家」となった。

8月

児童文学 リバイバル展「新美南吉の世界をたずねて」  
これまでの企画展から児童文学のリバイバル展を開催します。  
■期間:8月1日(火)~8月31日(木) 10:00~17:00  
■会場:2階展示室7

夏休み!子どものステンド硝子アート制作無料教室

小中学生を対象にした新しい技法のステンド硝子アートの制作教室を行います。  
■日時:8月19日(土) 13:00~14:30  
■会場:2階和室  
■定員:15名 ※小中学生対象  
■申し込み方法:8月12日(土) 10:00~12:00 文化のみち二葉館に電話申し込み



2017  
EVENT  
SCHEDULE  
各イベントのお申し込み・お問い合わせは文化のみち二葉館  
TEL/FAX 052-936-3836  
※月曜休館・イベントの予定は変更になる場合があります。

9月

レトロとロマンを感じる  
~名古屋お屋敷めぐり~  
4館スタンプラリー  
4館をめぐってプレゼントをもらいましょう!  
■期間:9月8日(金)~9月24日(日)  
※景品がなくなり次第終了  
■会場:文化のみち二葉館、文化のみち榎木館、旧豊田佐助邸、揚輝荘南園聴松閣

伝統芸能「正調名古屋甚句・端唄」  
無料体験講習会  
「三味線」初心者無料体験講習会

■日時:9月16日(土) 13:00~13:45  
「正調名古屋甚句・端唄」講習会  
14:00~14:45 「三味線」初心者講習会  
■会場:1階集會室 ■定員:各回15名  
■申し込み方法:9月12日(火) 10:00~12:00文化のみち二葉館に電話申し込み



体験撮影会  
「気分は貞奴」  
貞奴風の衣装を着て螺旋階段でスペシャルな撮影をしてみませんか!  
■日時:9月22日(金)、23日(土・祝)  
各日11:00~、14:00~  
■定員:各回10名  
■申し込み方法:9月13日(水) 10:00~文化のみち二葉館に電話申し込み

真夏の津軽三味線  
~高校生が伝える伝統芸能~  
県内唯一の津軽三味線部がある県立名古屋西高校の生徒による力強い演奏をお楽しみください。  
■日時:8月11日(金・祝) 11:30~12:00  
■会場:1階大広間 ※当日先着自由席



11月  
「歩こう!文化のみち」  
ふたば茶屋の抹茶サービス  
入館先着100名様に抹茶を進呈します。  
■日時:11月3日(金・祝) 11:00~  
※11時より受付にて呈茶券配布  
■会場:1階集會室

画家・柳瀬辰久「海季の水墨」展  
■期間:11月3日(金・祝)~11月10日(金) 10:00~17:00(最終日は15:00まで)  
■会場:1階集會室、2階和室

「江戸川乱歩と人形」講演と朗読  
江戸川乱歩についての講演と、作品「人でなしの恋」の朗読をお楽しみください。  
■講師:小松史生子(金城学院大学文学部教授)  
■朗読:いのご福代  
■日時:11月5日(日) 13:30~15:00  
■会場:1階大広間 ※当日先着順自由席

10月

姫きもの・秋の新作展  
97才の感性と17才の感性  
■期間:10月11日(水)~10月15日(日) 10:00~17:00 (最終日は15:00まで)  
■会場:2階和室 ■出品:古裂美術工房

「姫きもの」制作無料講習会

■期間:10月12日(木)・13日(金)・14日(土) 各日10:30~12:00、13:00~14:30  
■定員:各回10名  
■材料費:1,000円 ※裁縫道具持参  
■申し込み方法:10月4日(水) 10:00~12:00 文化のみち二葉館に電話申し込み



「江戸川乱歩と人形」展  
少年時代を名古屋で過ごした江戸川乱歩と、作品に描かれた“人形”についてご紹介します。  
■期間:10月18日(水)~11月15日(水) 10:00~17:00 ■会場:2階展示室

文化のみち・庭園をめぐる

文化のみち二葉館を起点としてスタートし、文化のみちエリア内の庭園を巡るツアーです。※参加費無料 ※当日は入館無料  
■日時:10月22日(日) 10:30~12:30  
■会場:文化のみち二葉館、主税町長屋門、宗興山禅院寺、富永山養念寺、松山神社、喜秀山真祖院玄白寺、文化のみち榎木館、名古屋城三の丸庭園  
■申し込み方法:10月17日(火) 10:00~12:00文化のみち二葉館に電話申し込み

12月

伝統芸能「正調名古屋甚句・端唄」  
無料体験講習会  
「三味線」初心者無料体験講習会  
■日時:12月9日(土) 13:00~13:45 「正調名古屋甚句・端唄」講習会  
14:00~14:45 「三味線」初心者講習会  
■会場:1階集會室 ■定員:各回15名  
■申し込み方法:11月29日(水) 10:00~12:00 文化のみち二葉館に電話申し込み

炫け! 第五回名古屋百人甚句

1年を振り返り百人による合唱で正調名古屋甚句をはじめ、楽しい甚句や地方唄を唄いましょう。  
■日時:12月17日(日) 13:00~  
■会場:1階大広間



トニキエコきっぷ・一日乗車券・メーグル1DAYチケットで  
入館料割引一般200円→160円

